

ANNUAL REPORT 2025



LGBTQユースサポート
プライドプロジェクト



日常の会話や学校・家庭環境の中では、異性愛や典型的な家族観、体と心の性の一致が前提とされていることが少なくありません。そのため、LGBTQの若者は、自分のことを説明したり、周囲に合わせたり、気を張ったりと、本来であれば負わなくてもよい心理的コストを日常的に負わされることがあります。

また、こうした前提から外れることで、必要な配慮や支援につながりにくくなり、安心して過ごせる環境や「安全の輪」からこぼれ落ちてしまうこともあります。

私たちは、このように特定の前提によって生まれる不利益や生きづらさを「体験格差」と捉え、その解消に向けた取り組みを行っています。

vision

セクシュアリティに関わらず
すべてのユースが居場所を感じることでできる社会

mission

セクシュアリティによる体験格差をなくし、
ユースが生き抜くことができる環境を整える

action

セクシュアリティにかかわらず、すべてのユースを視野に入れながら、主にLGBTQの23歳以下のこども・若者を対象として、居場所づくり、出張授業、啓発活動等の支援事業を阪神地域を中心に行っています。

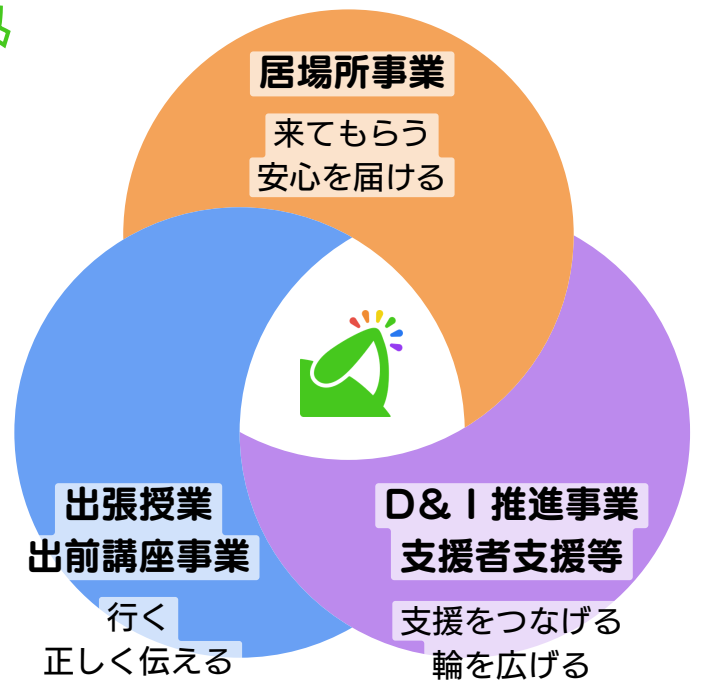
取り組み事業

- こども・若者向けコミュニティ運営・相談事業
- LGBTQ、SOGIに関するコミュニティ企画・運営
- LGBTQ、SOGIに関するテーマに合わせた講演、セミナー等の実施等
- LGBTQを包括した性の多様性についての研修、授業
- 教育機関職員研修、出張授業 等

私たちの取り組み

地域の中で活動をしているプライドプロジェクトは、セクシュアリティに関わらず全てのこども・若者が居場所を感じられ、安心できる関わりが得られることを目指しています。

LGBTQユースが安心できる場を提供する居場所づくり、学びの機会を広げるための出張授業等、地域の支援の輪を広げるための支援者支援事業、D&I推進事業を行っています。



2025年度活動ハイライト

79人



▶ P.5

居場所事業で西宮・尼崎市の2つの居場所に来てくれた若者の数

46カ所・4,953人



▶ P.6

出張授業・出前講座を提供した学校・NPO法人等の数と参加者数

17人



▶ P.8

支援者支援事業・D&I推進事業での勉強会に参加した支援者の数

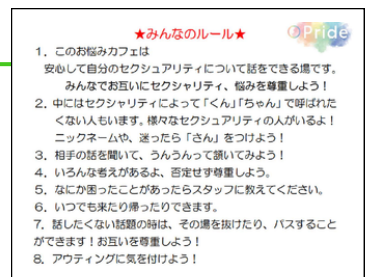
こども・若者を守るための運営体制

当団体では、法人化前から、セーフガーディング規約の策定準備や内部人事フローの明文化に加え、外部団体の支援を受けた振り返り・研修への参加や視察、専門性を持つプロボノ人材の参画などを通じて、運営基盤の強化を進めてきました。

2025年度はさらに安心・安全な居場所となるよう、下記の取り組みを進めました。

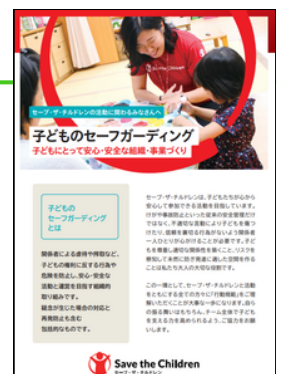
グランドルールの策定

居場所に来るこども・若者たちが安心して過ごせるよう、以前から運用していた「グランドルール」に相手の話の尊重、傾聴等の項目を話し合って追加しました。最初にみんなで読み合わせをしています。



セーフガーディング研修の受講

関係者がこどもの権利に反する行為や危険を行うことのないよう、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの提供する「子どものセーフガーディング研修」を団体として受講しました。



行動規範と誓約書の整備

LGBTQのこども・若者に配慮した行動規範を作成しました。これは、認定NPO法人虹色ダイバーシティと認定NPO法人ReBitが制作した「レインボーセーフガーディング」を参考にしたものです。

また、ボランティアを含め全スタッフには活動開始時にこの行動規範の読み合わせを実施し、こども・若者の搾取・虐待・性犯罪に関わる前歴前科がないことを誓う誓約書の提出を義務化しています。



行動規範

その他、

- 取材、研究に関する規定、同意書
- スタッフルール（かかわり方について、場の在り方、スタッフ心得）
- 保護者対応ガイドライン

等を策定しました。

居場所事業

目的

- LGBTQの若者が安心して過ごせる、権利保障の場をつくる
- 日常では話しにくいことを、安心して話せる場をひらく
- 他者とのつながりや自己理解を支え、多様なロールモデルに出会える機会をつくる
- 必要な地域資源をつなげる、届ける

居場所事業については、（公財）ひょうごコミュニティ財団の助成を受けて実施、2カ所で開催しました。

セクシュアリティにかかわらず気軽に参加できる半オープンな場（尼崎）と、落ち着いて継続的に関われるクローズな場（西宮）を設けることで、多様な関わり方を支えています。

尼崎市では、尼崎市立ユース交流センターと協力して「ユースプライドカフェ」を月1回開催し、2025年4月から2026年2月までに11回、60人が参加しました。参加者の多くは中高生でした。西宮市では、市との共催で2ヶ月に1回実施し、参加者19名、10代15名、20代4名の内訳でした。

利用者の満足度は8割以上、『言いたいことを話せた』『悩み事を言えた』『いろいろな価値観に触れられた』等の声があがっています。

継続的に来ている子どもたちが多いです。
利用する子どもたちが勇気を持って来てくれることにリスペクトを持ちながら安心できる居場所を提供することの大切さを感じます。



担当スタッフ なわちゃん



出張授業・出前講座事業

目的

- 性の多様性について、正しく伝える
- だれもが尊重されることを学ぶ機会をつくる
- すべてのこども・若者が安心して過ごせる環境づくりにつなげる
- 多様な性のロールモデルを届ける
- 教職員や支援者の理解と対応力を高める

出張授業事業では、熊西地域振興財団の助成を受けて実施、授業は46カ所、78回、4,953人にお届けすることができました。

小学校：50回、中学校：10回、高校・大学：2回、教職員・一般市民：16回実施しました。うち11カ所には助成金を割り当て、金銭的状况により外部講師を招くことが困難な学校への支援を行いました。

授業内容は

- 低学年では、一人ひとりの「ちがい」を大切にすることの大切さを学ぶ「もちあじワーク」を活用した多様性教育
- 高学年ではセクシュアリティの基礎知識
- 中学校以降では人権教育やキャリア教育の要素も含め社会を取り巻く環境としてパートナーシップ制度や国際的な婚姻制度の状況、アウトティングの問題等、発達段階に応じて構成しています。

2025年度実績

【兵庫県】

- 明石市
錦浦小学校 沢池小学校
大観小学校 高丘西小学校
高丘東小学校 谷八木小学校
鳥羽小学校 花園小学校
二見小学校 錦城中学校
- 西宮市
苦楽園小学校 甲東小学校
津門小学校 甲陵中学校
鳴尾中学校 他NPO等
- 加古川市 男女共同参画センター
- 加古郡 播磨中学校

【大阪府】

- 大阪市
春日出中学校 高津中学校
築港中学校 桃谷中学校
桃山学院高等学校
クレオ大阪子育て館 他NPO等
- 豊中市
新田小学校 虹っ子スクール
- 茨木市 茨木小学校
- 富田林市 にじいろブーケ
- 羽曳野市 はびきの埴生学園
- 枚方市 西長尾小学校
- 八尾市 安中小学校

【滋賀県】

- 大津市 滋賀大学教育学部
付属中学校
- 草津市 玉川小学校
- 近江八幡市
桐原小学校 桐原東小学校
武佐小学校

【その他の地域】

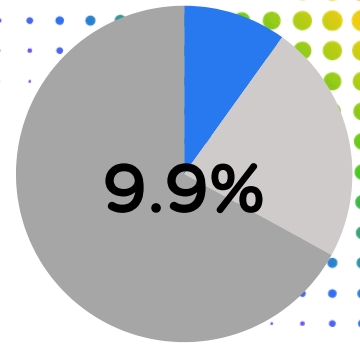
- 長岡京市 長法寺小学校
- 大和高田市 大和高田商業高校
- 新宿区 早稲田大学阿比留ゼミ



認知度 授業前のLGBTQの認知度は1割以下

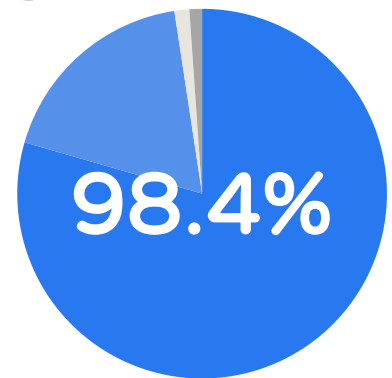
小学校高学年373人を対象に行ったアンケートによると授業前に「LGBTQ」の用語の意味を知っていた児童は1割以下にとどまりました。

また、同アンケートでは、身近な人とLGBTQについて話したことがないと回答した児童が84.2%にのぼります。日常の中で話題として扱われにくい状況がうかがえます。

**大切さの理解** 授業後は98.4%が学習の大切さを感じる

認知度がそのように低い一方で、授業後には「学ぶことは大切だと思うか」という設問に「大切」・「まあ大切」と答えた割合が、小学校高学年で98.4%となりました。

多様な性はまだ十分に知られていない一方で、学ぶ意義とニーズが大きいことがわかります。

**フリーアンサー** 多様性・自己肯定感の土台に**低学年**

“じぶんもあいても大切にしたい”

“人にはそれぞれもちあじがある”

小学校低学年では、多様性教育の土台や自己肯定感を育てることができたことがうかがえます。

高学年

“自分らしく生きようと思った”

“話を聞いて気持ちがすっきりした”

小学校高学年では知識の理解に加えて自己理解・安心感の変化がうかがえます。

中学生

“偏見をなくして『一人ひとりが違うことが当たり前で個性』と考える”

“カミングアウトされたら、『話してくれてありがとう』と言おうと思う”

中学生は多様なセクシュアリティを自分ごとや近い人に当てはめて受け止める様子が見られました。

大人

“私たち大人の方がもっと関心をもたなければいけないと感じました”

“性に対する違和感をもつ子の存在に目を向ける必要があることを知った”

保護者・教員は、「なんとなくの知識」から「実際の困難と必要な対応を理解した」と行動・姿勢の変容へとつながった様子が見られました。

支援者支援事業 D&I推進事業

目的

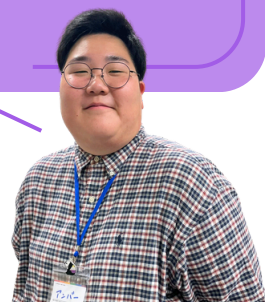
- 地域の支援者を増やす
- 支援者同士のネットワークを形成する

7月に「性の多様性を包括したこどもの居場所をつくる人の勉強会」を開催、地域のNPO法人、ユースワーカー、学校教師など様々な立場の参加者17人が集まり、ケーススタディを通じてグループワークを行いました。

講師として一般社団法人にじずの中村さんにワークショップ型で具体的な支援策や知識を学び、尼崎市立ユース交流センターの藤岡さんにはユースセンター内で当団体と共同で実施している、包括した居場所の実践事例についてお話しいただきました。

参加者からは、「基礎知識だけでなく、現場でユースと関わっている実績があるからこそその知見を知ることができた」「講師のお話の中にグループワークを安心して進めるための配慮が様々にあり、参加者の交流が促進された。この体験はユース支援を行うときに非常に役立つと思った。」等の声がありました。

参加者の熱量が高く、活発な議論が行われ、新たな視点を持ち帰ってもらえる内容となりました。また、現場で孤立しがちな支援者同士が繋がる機会となったと思います。



担当スタッフ アンバー

後援：西宮市、西宮市教育委員会



赤い羽根共同募金



2025年度の支援者支援事業は
赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しました。

イベント登壇や地域出展等、さまざまな形で地域との関わりを広げています

多様な接点づくりの取り組み

「LGBTQ/SOGIE Youth Forum2026」へ登壇

NPO法人ReBitが国連教育科学文化機関（ユネスコ）と連携し、実施したリーダー育成プログラム「diverseeds2025」の一環として、東京・新宿で開催された「LGBTQ/SOGIE Youth Forum2026」に登壇し、地域の実践やユースから見た必要な支援や仕組みについてお話ししました。



当日の様子は朝日新聞でも取り上げられました。

地域イベント出展

地域での接点づくりとして、地域の子どもたちも来るお祭り「ろくたんじ夏祭り」にブース出展しました。チラシや本を展示したところ、何人かの方に書籍を購入したいというお声をいただき、手ごたえを感じました。

主催：NPO法人子どもサポートステーション・たねとすずく
協力：コープこうべ



LINE相談

必要に応じて適切な社会的資源につなぐ目的で、LINEでの相談受付を行っています。2025年度は18件の相談がありました。うち8割が若者からの相談でした。

相談内容：

- 性別違和について
- 医療機関についての問い合わせ
- 相談先紹介依頼
- 保護者との関係性について
- 性的指向について

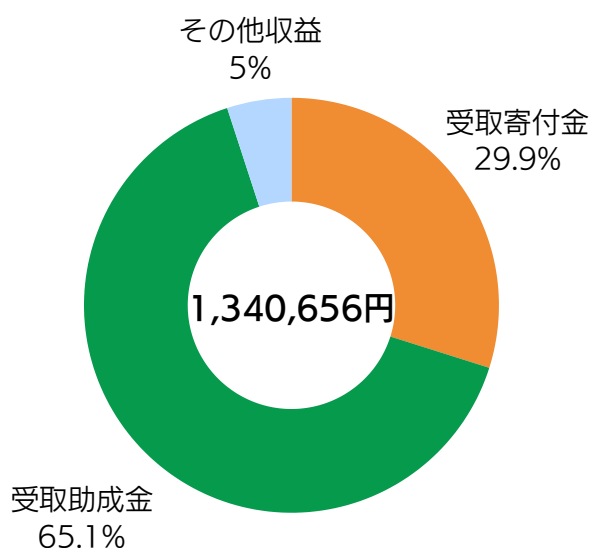
令和7年度 活動計算書

(令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日)

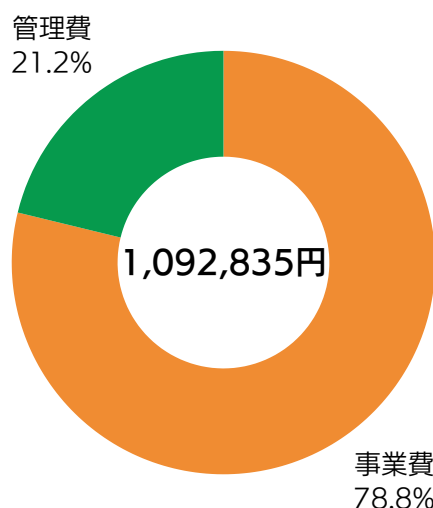
法人化前である令和7年度は、助成金・寄付金を中心とした財源により、事業実施と運営基盤づくりに活用してきました。

科目	金額
1 受取寄付金	400,530
2 受取助成金等 民間助成金等	872,880
3 その他収益 雑収入・利息等	67,246
経常収益計	1,340,656
1 事業費 謝金	380,000
旅費交通費	150,389
通信費	71,779
会議費	56,283
研修費	53,000
その他経費	180,588
2 管理費 備品費	102,240
賃借料	31,000
地代家賃	29,304
その他経費	38,252
経常費用計	1,092,835
当期経常増減額	247,821
当期正味財産増減額	247,821
前期繰越正味財産額	118,573
次期繰越正味財産額	366,394

収入の部



支出の部



2026年4月のNPO法人化を契機として、今後はマンスリーサポーターおよび賛助会員を広げながら、特定の財源に依存しない運営体制の構築、安定的に支援を届けるためのさらなる基盤強化に取り組んでいきます。

2025年度の振り返りと今後の展望

2025年度は、法人化を見据え、共に組織をつくる仲間を迎え入れるとともに、チームで安心してユースを支援するための研修体制の強化や、支援者同士のネットワークづくりに取り組みました。まだ十分とは言えない点もありますが、現場での実践を重ねる中で、活動の手応えも少しずつ見えてきています。

2026年度は、これまでの歩みを止めず、新たな出発点として支援の輪をさらに広げ、皆さんと共に団体を育てながら、すべてのこども・若者がセクシュアリティや特性に関わらず、地域の中で安心して過ごせる環境づくりを進めていきます。



代表理事 本多 まさ



About us

特定非営利活動法人LGBTQユースサポート・プライドプロジェクト

代表理事：本多 まさ

理事：吉岡 有可

公立小学校主幹教諭（養護教諭）

井上 鈴佳

元養護教諭・性の多様性講師

大和 陽子

NPO法人こどもサポートステーション・たねとしく代表理事

監事：坂田 和

コアメンバー：9名 ボランティア：2名

NPO法人LGBTQユースサポート・プライドプロジェクト 2025年度年次報告書（2026年5月発行）

この報告書はNPO法人ReBitとユネスコの協働プログラム
「diverseeds2025」の助成を受けて作成しました。



〒662-0051
兵庫県西宮市羽衣町7-30
夙川グリーンタウン3階

✉ email@pride-jp.com
🏠 <https://www.pride-jp.com/> ▶
📷 @youthlgbtspride

